“津久井観音霊場巡り”その６

６日目（H19, 2007/06/28 木）　車にて

自宅(am11:05 出発)→ 沼本ダム見物 →　第 28 番；**蓮乗院**　→　第 27 番；**向瀧寺**　→　第 29 番；**長昌寺**　→　第 36 番；**龍泉寺**　→　第 30 番；**井原寺**　→第 38 番；**東陽寺**→第 40 番；**清真寺**→**自宅**（pm17:00 着）

観音めぐりに初めて全線に車を利用をする日なので、幻のダム“沼本ダム”をもう少し詳しく知りたい衝動にかられ、藤野に向かう前にダムを正面から眺める場所を探したあとに、横浜水道の遺構も探索することにした。（詳しくは、沼本ダム見物紀行を参照）

沼本ダムや横浜水道の遺構の探索などに約 1 時間半位を費やし、28 番札所；蓮乗院にたどり着いたのは午後 2 時 10 分になってしまっていた。蓮乗院では、関係者が丁度お通夜の用意をしているところで、本堂前での読経はさすがに憚られたので、脇の大師像に読経し、早々に引き上げることにした。

草も木も茂る牧の
山端より蓮に法の
雲ぞ靉く

くさもきもしげるまきの
やまばよりはちすにのりの
くもぞたなびく

第２８番　蓮乗院（大鐘）　　如意輪観世音菩薩

牧野山蓮乗院（れんじょういん）。**高野山真言宗**。御本尊は阿弥陀如来。弘安８年（1285）鎌倉極楽寺の開基、乗海忍性律師の弟子蓮乗に依り梨本の地に堂宇建立。寛永初期大鐘の地に移転する。文政１３年本尊並びに過去帳の一部を残し廃燼に帰したが、直ちに現本堂を建立し、関東法談３６院の一つと成る。歴代法系は、現５１世に迄及び、檀信徒も各地に分布し檀家数も多い。

ナビで 27 番；向瀧寺を設定すると、28 番に誘導されていることにお参りして初めて気がついた。飛ばしてしまった第 27 番；向瀧寺は、見落としそうな小さなお堂で草ぼうぼうの狭い境内、今は廃寺となっており、地域の生活改善センターの看板が掛かっていたが、観音像は中に安置されているとの案内看板がひっそりとたたずんでいた。 地域の人達が末永く見守ってくれることを念じながら読経する。

立向う滝の流れに
罪咎を洗い流して
浮かぶ後の世

たちむかうたきのながれに
つみとがをあらいながして
うかぶのちのよ

第２７番　向瀧寺（馬本）　　十一面観世音菩薩

永峯山向瀧寺（こうりゅうじ）。高野山真言宗 。本尊は十一面観世音菩薩。開山は江戸中期恵門が開祖と成る。その後、廃寺になり観音堂が境内に残されていたが、当地に昭和５８年馬本生活改善センターが開設され、そのセンター内に御本尊は安置されている。第２８番札所の蓮乗院が現在は兼務している。

ここから第 29 番“長昌寺”までは奥相模湖の道志ダムを目指していくことになる。道志ダムを見物しながら、かなりの道のりを経て 29 番；長昌寺に到着した。お寺の駐車場所が見当たらず近くの診療所に駐車し、歩いてお参りする。付近にはキャンプ場が点在する景勝地になっているようであった。

冬枯れも春は青根の
寺の庭永き昌の
誓いたのもし

ふゆがれもはるはあおねの
てらのにわながきさかりの
ちかいたのもし

第２９番　長昌寺（青根）　　如意輪観世音菩薩

金谷山長昌寺（ちょうしょうじ）。**臨済宗建長寺派** 。本尊は薬師如来。創建は室町時代中期。開山は楞山守巌和尚で夢窓国師 11 世の孫と言われる。江戸期 には平丸に長昌寺、東野に長蔵院、上野田に泉福寺があった。明治初年に長昌寺焼失。大正２年、長昌寺は、従来の寺地（平丸） を離れ、現在地（上野田）にあった泉福寺と合併、泉福寺を廃し、改めて長昌寺と称す事と成った。眼下には道志川の清水が流れ、このまざわキャンプ場がある景勝地。

ここから第 36 番“龍泉寺”までも、かなりの走行距離である。細い道の奥にひっそりとたたずむようにこのお寺はあった。お墓の手入れをしている人達を横目に読経しお参りする。入口にはご詠歌の見事な“かな書き石碑”がひっそりとたたずんでいた。

第３６番　龍泉寺（長野）　聖観世音菩薩

紅葉山龍泉寺（りゅうせんじ）。**曹洞宗** 。本尊は阿弥陀如来。開創当初は龍泉庵と称し、井原寺開山と同じ暁峯説演である。明応年間（1492～1500）北条早雲に仕えた松田城主、松田左衛門尉頼秀公が西野丶で自決したが、暁峯大和尚が明日庭に葬り、開基とし、寺を建立した。昭和１３年秋、当山２５世高岳松巌大和尚によって檀信徒の家内安全、無病息災を祈願して聖観世音菩薩が安置された。

長野の旅訪ねてここに
龍泉寺山も誓いも
深き沢越え

ながのたびたずねてここに
りゅうせんじやまもちかいも
ふかきさわこえ

30番“井原寺”には道が細く、車で近づくのに苦労する。着いてみると山門前に立派な駐車場があるではないか、しかも山門も境内も素晴らしいお寺だった。たくさんの菩薩が小さな山に遷座している様も壮観である。山門の造りも姿も素晴らしい。呪文を三度唱えて山を廻ると願いが叶えられるという案内板もあり、そんなときにはお参りすることにしようかなとちらっと思ったが、般若心経の“照見五蘊皆空度一切苦厄”のお参りの時には相容れない心境だなと感じていたら、山門の横に巡礼用の観音堂を見つけた。今の心情はこちらだなと静かに読経した。

誓えかし願いも深き
井原寺仏に青野
関を越ゆれば

ちかえかしねがいもふかき
せいげんじほとけにあおの
せきをこゆれば

第３０番　井原寺（青野原）　聖観世音菩薩

願廣山井原寺（せいげんじ）。**曹洞宗** 。本尊は延命地蔵菩薩。応永 24 年（1417）三青山青原寺として創建され、開基は井上左衛門尉行康の妻で、 病気平癒の報恩の為、土地と浄財を寄進し、享禄元年（1528）慶岩（道誉）和尚の時代、現在地に井原寺を再建する。聖観世音菩薩 は享保 12 年（1727）、当寺 7 世の功林徳全大和尚が安置したものである。

ここから 38 番“東陽寺”へは、住所を記録せずに出かけてきてしまったようで地図上の目印だけを頼りにナビ入力し、やっと探しだし、お参りする。

大奥の焼山望む
東陽寺心清めて
利益授けん

おうおくのやけやまのぞむ
とうようじこころきよめて
りやくさずけん

第３８番　東陽寺（鳥屋）　慈母観世音菩薩

大奥山東陽寺（とうようじ）。**臨済宗建長寺派**。本尊は薬師如来。室町時代、応永 10 年（1403）の開創で、開山は天沢守悦禅師である。寺の世代は 関の光明寺と深い法縁を持つ。又、古くは、近くに藤原山常念寺と云う一向宗の寺があり、親鸞上人の創立成りと言う。その後、東陽寺の末寺と成るが、無住無檀にて、明治 6 年 10 月廃寺となっている。裏手の慈母観世音は、第４番札所の湘南寺と姉妹観音として新たに造立した。

時刻が４時を少し廻り、あせりながら次の第 40 番“清真寺”を目指す。本日予定の最後のお寺はすぐに見つかり、参道の階段下に車を止めお参りする。本堂には簡単にお参りを済ませ、左手の津久井観音に読経する。お参りが済み、階段下で写真を撮っていて、カメラを抱えたまま後ろに 1 段踏み外してしまう。とっさにカメラのことが頭をよぎり、カメラだけは守ろうと、思いっきり背中丸めて転んでいた。それでもかすかにカメラを砂利にぶつけてしまった。空なる時間にとらわれて、本堂へのお参りを簡単に済まそうとしたのを戒められた思いがして、最後に本堂に読経し直して帰途についた。

大乗の法華広めし
観世音護念の慈悲を
今垂れ給え

だいじょうのほっけひろめし
かんぜおんごねんのじひを
いまたれたまえ

第４０番　清真寺（鳥屋）　聖観世音菩薩

鳥岳山清真寺（せいしんじ）。**天台宗**。本尊は阿弥陀如来。当寺は菱山肥後守入道隆顕公が菱山氏菩提の為に、文永 2 年（1265）3 月開創する。10 世の圓海和尚は鳥屋村に祭事芸能が無いのを寂しく思い、獅子頭を刻み獅子舞を作った。獅子舞は神奈川県無形文化財に指定されている。霊場本尊の聖観世音菩薩は木食上人が一刀三礼して謹彫せられ、霊験ある観音様として信仰されている。

車に乗り込んで発車してしまってから、右肩から背中にかけてゴミを一杯つけているのを忘れていた。やはり何かが足りないのかなと自戒しながら、ハルが散歩を待つ我が家に無事に帰りついたのは、午後５時を廻るところだった。

（津久井観音霊場巡り－その６　終わり）